

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.200

2018年12月25日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 1・17を忘れない「語りつく会」のとりくみに学ぶ

防災教育部会

芦屋市の小学校で「語りつく会～全校生で伝え合おう～」が開催されました。この会は、「阪神・淡路大震災に関するとりくみを全校生がお互いに伝え合うことにより、いつまでも震災を忘れないという意識を持つこと」をねらいとしてとりくまれています。全校生が体育館に集まり、この1年間で震災について学んだことを学年ごとに発表し合いました。1年生では「米津深理ちゃんのあさがお」、2年生では「阪神・淡路大震災後の復興ひまわり」、3年生では「祈りの碑」、4年生では「希望のりんご」、5年生では「防災学習絵本『この町がすき』」、6年生では「精道小学校で亡くなった8人の子ども」の発表をおこないました。特に、6年生の発表に全校生が聞き入っていたことが印象的でした。



続いて、児童会が中心になって「ペアで折り鶴を折ろう」がおこなわれました。低学年の児童は、高学年の児童から教えてもらいながら、折紙に祈りの言葉を書き、折り鶴を折っていきました。できあがった折り鶴は、来年の1月17日の「追悼式」に捧げられる予定です。会の最後は、ペアになって体育館に展示された震災当時の校区のようすや今までの追悼式のようすなど見学して終わりました。

3時間目と4時間目は、6年生が「5年生に伝える会」をおこない、6年間で学んできたことを、5年生に伝えるための学習をおこないました。内容は「助け合いの意味」「『想定外』を想定する」「遺品から学んだこと」やゲストティチャーとして来ていただいた遺族の方等から学んだことなどを、6年生が一生懸命伝えようとしているのが印象的でした。一方5年生は、次は自分たちが伝えていかなければならないためか、発表に対して積極的に質問をしていました。

事後の研究会では、担当された教員から「語りつく会」のとりくみについて話がありました。研究所員からの質問に対して丁寧に答えていただきました。①年間計画の中にこのとりくみが位置付けられていること、②大震災を経験した人が年々少なくなっていく中で、若手の教員から「研修をしてほしい」という



要望が上がり、夏休み中に研修を持ったこと、③年々遺族等の方が来られなくなるので、阪神・淡路大震災を忘れないとりくみを学習活動としてとりくんでいることなどの説明を受けました。

防災教育部会としても、とりくみを風化させることなく、原点に学びながら、防災・減災のとりくみをすすめていかなければならないと感じました。